

- 問1 1889年に発布された大日本帝国憲法は、当時のアジアの情勢においてどのような歴史的意義を持っていましたか。最も適切な説明を選んでください。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
- |                                     |                                     |  |   |
|-------------------------------------|-------------------------------------|--|---|
| 1. 欧米諸国に並ぶ近代国家を目指し、アジアで最初の立憲国家となった。 | 2. 国民が主権を持つことを世界で初めて宣言した民主的な憲法であった。 | 3. 江戸幕府の仕組みを維持しながら、外国の技術を取り入れるためのものであった。 | 4. 五箇条の御誓文の内容を否定し、天皇がすべての政治判断を一人で行う体制を確立した。 |
|-------------------------------------|-------------------------------------|--|---|
- 
- 問2 大日本帝国憲法の公布（1889年）から、第一次世界大戦後のベルサイユ条約調印（1919年）までの時期に日本で起こった出来事として、正しいものはどれですか。 (2023年 埼玉県公立入試 類似)
- |   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 1. 官営の八幡製鉄所が設立され、日本の産業において重工業が発展するきっかけとなった。 | 2. 鹿鳴館が建設され、欧米諸国に日本の近代化を示すための外交政策が活発に行われた。 | 3. 普通選挙法が制定され、満25歳以上のすべての男子に選挙権が与えられるようになった。 | 4. 国家総動員法が制定され、戦争のために国民や物資を強制的に動員する体制が整えられた。 |
|---|--|--|--|
- 
- 問3 日本の近代政治の歩みをまとめた年表において、1874年の出来事として記されている「民撰議院設立建白書」の提出において、板垣退助らが政府に対して最も強く求めた内容はどのようなものですか。 (2023年 長崎公立入試 類似)
- |  |                                     |                                      |                                      |
|--|-------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 国民から選ばれた議員による議会を設置し、公の議論によって政治を行うこと | 2. 江戸幕府の仕組みを復活させ、士族による合議制の政治を再興すること | 3. 天皇にすべての政治権力を集中させ、外国との条約を直ちに破棄すること | 4. 納税額に関わらず、すべての国民に平等の選挙権と被選挙権を与えること |
|--|-------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
- 
- 問4 明治時代の日本の産業において、綿糸の生産と輸出入の関係がどのように変化したかについて述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2016年 広島公立入試 類似)
- |   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 1. 1890年ごろに国内の生産量が輸入量を上回り、1890年代後半には輸出品が輸入量を上回って主要な輸出品となった。 | 2. 開国直後から輸出量が輸入量を大幅に上回っており、日露戦争の時期に初めて国内の生産が必要に追いついた。 | 3. 官営模範工場が生産の大部分を占めていたため、民間企業による輸出は明治時代を通じてほとんど行われなかった。 | 4. 重化学工業の発展に伴って綿糸の生産は衰退し、明治時代末期には再び輸入が輸出を上回るようになった。 |
|---|---|---|---|
- 
- 問5 日清戦争後の日本において、軍事力の強化や産業の近代化を目的として行われた政策について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2025年 沖縄公立入試 類似)
- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 1. 下関条約で得た賠償金の一部を投じ、鉄鋼の自給自足を目指して八幡製鉄所を建設した。 | 2. 欧米諸国との対等な外交を進めるため、鹿鳴館を建設して外国使節を接待する政策を強化した。 | 3. 蝦夷地を北海道と改称し、開拓使を置いて大規模な屯田兵による開発と防衛を同時に進めた。 | 4. 国家の仕組みを整えるため、伊藤博文を初代内閣総理大臣とする内閣制度を創設した。 |
|---|--|---|--|
- 
- 問6 明治初期の1872年に『学問のすめ』を出版し、「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」という言葉で個人の自由や平等の重要性を説いた、現在の一万円札の肖像でも知られる人物は誰ですか。 (2019年 長崎県公立入試 類似)
- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 福沢諭吉 | 2. 板垣退助 | 3. 大隈重信 | 4. 中江兆民 |
|---------|---------|---------|---------|
- 
- 問7 明治時代における日本の美術教育と、万国博覧会への出品傾向の変遷について述べた文として、正しいものはどれか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
- |  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 1. 1889年に東京美術学校が開校し、のちに西洋画科も設置されたことで、1900年の万国博覧会では日本画や西洋画が多数出品されるようになった。 | 2. 1867年のパリ万国博覧会では、すでに東京美術学校で学んだ作家による西洋画が展示の主流となっており、欧米諸国から高い評価を受けた。 | 3. 明治政府は浮世絵の国際的価値を重視し続けたため、1900年のパリ万国博覧会においても出品数の過半数を浮世絵が占めていた。 | 4. 1896年に東京美術学校に西洋画科が設置されると、それまでの日本画教育はすべて廃止され、以後の万国博覧会では西洋画のみが出品された。 |
|--|--|---|---|
- 
- 問8 1885年には約500であった国内の紡績工場数が、1900年には4000を超えるまでに急増しました。このような日本の産業革命初期における貿易構造の変化について、正しい説明はどれですか。 (2022年 徳島公立入試 類似)
- |  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| 1. 原料である綿花の輸入が増加し、製品である綿糸の輸出が輸入を上回るようになった。 | 2. 国内での需要に応えるため、イギリスから安価な綿糸を大量に輸入し続ける構造となった。 | 3. 重化学工業の発展にともない、綿花よりも鉄鉱石や石炭の輸入が貿易の大部分を占めた。 | 4. 蚕養業の衰退により生糸の輸出が止まり、代わりに綿織物の輸入が急増した。 |
|--|--|---|--|
- 
- 問9 19世紀末の日本では産業革命が進展し、貿易の構造が大きく変化しました。1880年代前半には綿糸などの工業製品を多く輸入していましたが、1890年代後半になると、国内の紡績業が発達したことで、製品の代わりに何を原料として大量に輸入するようになりましたか。 (2022年 三重公立入試 類似)
- |       |       |        |       |
|-------|-------|--------|-------|
| 1. 綿花 | 2. 生糸 | 3. 鉄鉱石 | 4. 石炭 |
|-------|-------|--------|-------|
- 
- 問10 1867年のパリ万国博覧会では、日本からの出品物のうち浮世絵が100点を占め、日本画や西洋画は1点も出品されていませんでした。しかし、1900年のパリ万国博覧会では浮世絵の出品が0点となる一方で、日本画が92点、西洋画が37点出品されるという大きな変化が見られました。このような出品内容の変化が起きた背景として、明治政府が行った教育政策に関する説明として最も適切なものはどれか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| 1. 東京美術学校を設立して日本画や西洋画の公的な教育体制を整えたことで、専門的な教育を受けた作家による作品が国際的な場へ出品されるようになった。 | 2. 浮世絵の海外流出が激しくなったため、政府は万国博覧会への浮世絵の出品を法律で禁止し、代わりに伝統的な工芸品のみを奨励する方針をとった。 | 3. 西洋画の普及によって日本画の需要が完全になくなったため、政府は東京美術学校において日本画の教育を廃止し、西洋画のみを展示する方針に転換した。 | 4. 江戸時代の文化を否定する目的で、政府は1889年の開校当初から東京美術学校において西洋画のみを指導対象とし、伝統的な技法を一切排除した。 |
|---|--|---|---|
- 
- 問11 20世紀初頭の日本の産業と社会の動きについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 1. 日清戦争の賠償金をもとに八幡製鉄所が建設され、その後の重工業の発展の中で、労働条件の改善を目指す工場法が制定された。 | 2. 日露戦争の賠償金をもとに八幡製鉄所が建設され、それ以前に制定されていた工場法によって労働者の権利が完全に守られた。 | 3. 八幡製鉄所の創業によって軽工業が衰退したため、失業した労働者を救済するために工場法が制定された。 | 4. 開国直後に八幡製鉄所が建設され、欧米諸国との不平等条約を改正するために工場法が制定された。 |
|---|--|---|--|

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 欧米諸国に並ぶ近代国家を目指し、アジアで最初の立憲国家となった。	大日本帝国憲法は、天皇が国民に授ける「欽定憲法」の形をとりつつも、アジアで初めて憲法に基づいて政治を行う「立憲国家」としての体裁を整えたものでした。この背景には、近代的な法体系を整備することで、欧米諸国との不平等条約を改正しようとする外交上の目的も含まれていました。
問2	答え 1 官営の八幡製鉄所が設立され、日本の産業において重工業が発展するきっかけとなった。	八幡製鉄所の操業開始は1901年であり、日清戦争（1894-95年）と日露戦争（1904-05年）の間の時期にあたります。鹿鳴館の建設は憲法公布前の1883年、普通選挙法の制定は1925年、国家総動員法の制定は日中戦争開始後の1938年であるため、1889年から1919年の間に該当するのは八幡製鉄所の設立となります。
問3	答え 1 国民から選ばれた議員による議会を設置し、公の議論によって政治を行うこと	板垣退助らは、政府が一部の人間だけで物事を決めるのではなく、国民から選ばれた代表（民撰議院）が議論を尽くす立憲政治を日本に導入すべきだと主張しました。この「民撰議院設立建白書」の提出は、武力ではなく言論によって政府を動かそうとする自由民権運動の出発点となりました。
問4	答え 1 1890年ごろに国内の生産量が輸入量を上回り、1890年代後半には輸出量が輸入量を上回って主要な輸出製品となった。	日本の紡績業は急速に発展し、1890年に生産量が輸入量を、1897年には輸出量が輸入量をそれぞれ上回りました。これにより、日本は綿糸の輸入国から輸出国へと転換し、外貨を獲得する重要な産業へと成長しました。
問5	答え 1 下関条約で得た賠償金の一部を投じ、鉄鋼の自給自足を目指して八幡製鉄所を建設した。	1895年の下関条約締結後、日本は獲得した賠償金を軍備拡張や重工業化のために活用しました。その代表例が官営の八幡製鉄所であり、日露戦争に備えた軍艦や鉄道の材料となる鉄鋼を国内で生産する体制を整えました。なお、内閣制度の創設や北海道への改称、鹿鳴館の建設はいずれも日清戦争（1894年開始）よりも前の出来事です。
問6	答え 1 福沢諭吉	慶應義塾の創設者としても知られるこの人物は、欧米の近代思想を日本に紹介しました。封建的な身分制度を否定し、国民一人ひとりが「独立自尊」の精神を持つことが、日本の近代化と国家の独立に不可欠であると考えました。
問7	答え 1 1889年に東京美術学校が開校し、のちに西洋画科も設置されたことで、1900年の万国博覧会では日本画や西洋画が多数出品されるようになった。	明治初期の1867年パリ万博では浮世絵が中心でしたが、1889年に東京美術学校が設立され、1896年に西洋画科が加わったことで、日本国内で組織的な美術教育が行われるようになりました。その結果、1900年のパリ万博では浮世絵の出品がなくなる代わりに、教育の成果である日本画が92点、西洋画が37点出品されるなど、出品物の構成が大きく様変わりしました。
問8	答え 1 原料である綿花の輸入が増加し、製品である綿糸の輸出が輸入を上回るようになった。	紡績工場が激増し、機械による大量生産が実現したことで、日本は「綿糸」の輸入国から輸出国へと転換しました。この時期の貿易統計では、製品である綿糸の輸入割合が低下する一方で、国内生産を支えるための原料である「綿花」の輸入割合が大幅に上昇しています。1890年には綿糸の輸出量が輸入量を上回り、軽工業を中心とした日本の産業革命が確立されました。
問9	答え 1 綿花	日本の産業革命は、まず綿紡績業などの軽工業から始まりました。当初はイギリスなどから工業製品である綿糸を輸入していましたが、国内での機械による生産が軌道に乗ると、原料である綿花を海外から買い付け、国内で加工する体制が整いました。これにより、貿易の主役は製品の輸入から原料の輸入へと変化しました。
問10	答え 1 東京美術学校を設立して日本画や西洋画の公的な教育体制を整えたことで、専門的な教育を受けた作家による作品が国際的な場へ出品されるようになった。	明治政府は1889年に東京美術学校を設立し、当初は日本画、1896年には西洋画科を設置して近代的な美術教育を推進しました。この教育体制の整備により、万国博覧会における日本の展示内容は、江戸時代からの伝統である浮世絵中心のものから、近代教育を受けた作家たちによる日本画や西洋画へと劇的に変化しました。1867年当時には存在しなかった「教育された美術家」による作品が、1900年には日本の芸術を代表する存在になったことを示しています。
問11	答え 1 日清戦争の賠償金をもとに八幡製鉄所が建設され、その後の重工業の発展の中で、労働条件の改善を目指す工場法が制定された。	1901年に創業した八幡製鉄所は、日清戦争（1894～95年）の賠償金が資金となりました。その後、重工業が進むにつれて労働問題が顕在化し、1911年に工場法が制定されるという歴史的な流れがあります。選択肢にある「日露戦争の賠償金」については、日本は日露戦争で賠償金を得られていない点も重要な判断材料となります。